DEPARTMENT OF MOLECULAR MEDICINAL CHEMISTRY

分子創薬化学研究室

2021. 6

ORGANIC CHEMISTRY

教 授
佐 野 茂 樹
Shigeki SANO

助 教
中 尾 允 泰
Michiyasu NAKAO

分子創薬化学研究室では「ヘテロ原子の特性を活用する新反応および機能性分子の開発と創薬への応用」を研究課題の柱とし、薬学としての独自性と学際性を備えた有機化学的研究の世界レベルでの展開を目指し、次のようなテーマに取り組んでいます。

1）ＨＷＥ反応を鍵反応とするグリセロリン脂質合成法の開発
2）Garegg-Samuelsson反応を基盤とするＨＷＥ試薬の合成開発
3）安定型イソインドール誘導体の合成ならびに新規蛍光標識剤の開発
4）ジケトピペラジンの分子構造特性に基づく機能性分子の創製
5）アレニルエステルを基盤とするヘテロ五員環合成法の開発
6）ヘテロ環化合物合成を基盤とする医薬品・農薬素材の探索

The main concern of this department is "development of new reactions, functional molecular devices, and new candidate compounds for drugs".

研究室の情報はホームページ（「分子創薬化学」で検索、またはＱＲコードで！）に掲載しています。
詳細についてのご質問等は、研究室（6階東）をお訪ね下さい。

Members of Our Lab.

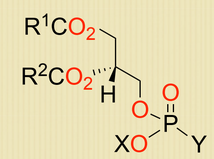
2021-06-22 撮影
長井記念ホール前にて

技術補佐員
竹 内 菜 穂 子
Nahoko TAKEUCHI

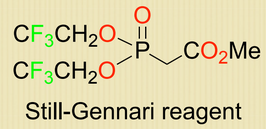
学　部	薬学科５名
	創製薬科学科８名
大学院	博士前期課程８名
	博士後期課程１名

Key Words　創薬化学　高選択的反応　機能性分子

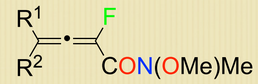
Key Compounds



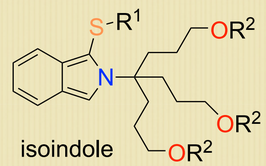
glycerophospholipid



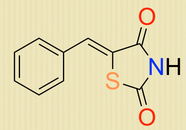
Still-Gennari reagent



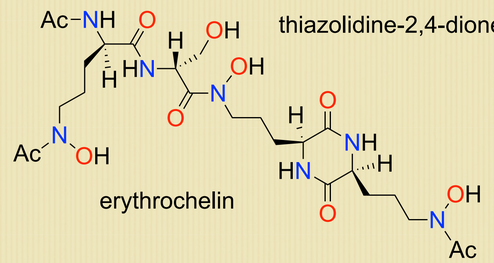
fluorinated allene



isoindole



thiazolidine-2,4-dione



erythrochelin

令和２年度博士論文

・戸口 宗尚「アレニルエステルのチア-マイケル付加反応を起点とする多置換チオフェン誘導体の合成研究」
・仲村 明人「硫黄およびリン求核剤を用いる安定型イソインドール誘導体の合成研究」

令和２年度卒業論文（薬学科）

・原田 紘之介「Pimキナーゼ阻害活性を有する1,3-チアゾリジン-2,4-ジオン類縁体の合成研究」

令和２年度修士論文

・井原 嵩人「ビス(オルガノチオ)ホスホリル酢酸メチルを用いる立体選択的ＨＷＥ型反応の開発研究」
・大多和 孝一「3-イミノアクリル酸メチルのチア-マイケル/ディークマン反応による四置換チオフェンの合成研究」

令和２年度卒業論文（創製薬科学科）

・久保 明音「農薬活性を指向した1*H*-イミダゾ[1,2-*a*]-2-イミダゾール誘導体の合成研究」
・藤井 千恵子「ビス(ベンジルアミノ)ホスホリル酢酸メチルの合成とＨＷＥ型反応への応用」
・山口 真生「新規ケテンシリルアミナール合成を指向した3-イミノアクリル酸エステルのオキサ-マイケル付加反応」